

# 2026 年の周年記念企業、 栃木県は 2,181 社 「100 周年」は 30 社

100 周年、業種別では「小売業」が 12 社で最多  
50 周年は 349 社、最多は「建設業」の 107 社

## 栃木県・「周年記念企業」調査(2026 年)



本件照会先

古川 哲也(調査担当)

帝国データバンク

宇都宮支店

TEL: 028-636-0222(代表)

info.utsunomiya@mail.tdb.co.jp

発表日

2025/12/19

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

## SUMMARY

2026 年に周年を迎える栃木県内企業は 2,181 社あることが判明した。「20 周年」企業が最多の 483 社であった。「100 周年」企業は 30 社、「50 周年」は 349 社確認された。100 周年を業種別でみると、「小売業」が最多の 12 社、50 周年では「建設業」が 107 社で最多だった。100 周年の市郡別では、県都「宇都宮市」が 5 社で最多、以下、「足利市」4 社、「鹿沼市」、「那須塩原市」および「那須烏山市」、「芳賀郡」が各 3 社と続いた。時代の荒波を乗り越え、多くの企業が記念の節目を迎えたことに対し敬意を表するとともに、新たな時代に向かってエールを送りたい。

帝国データバンクは、創業・設立から節目を迎える企業(個人経営・特殊法人・団体等含む)を「周年企業」として、10 年刻み(200 周年超は 50 年刻み)で抽出し、分析を行った。なお、同様の調査は今回で 16 回目。

[注 1] 2025 年 11 月時点における帝国データバンクが保有する企業概要ファイル( COSMOS2 、約 150 万社収録)、および企業信用調査報告書( CCR 、約 200 万社収録)、外部情報などを基に集計

[注 2] オーナー企業とは、代表者(社長)の持ち株比率が 51%以上の企業を指す

## 2026年に周年を迎える主な企業

周年	商 号	創業年	主な事業	本社所在地
160	菊の里酒造 株式会社	1866年(慶応2年)	清酒製造	大田原市
130	株式会社 竹石紙店	1896年(明治29年)	和洋紙卸	宇都宮市
100	株式会社 小林工業	1926年(大正15年)	一般土木建築工事業	下野市
100	株式会社 熊本商店	1926年(大正15年)	鉄スクラップ卸	宇都宮市
100	烏山通運 株式会社	1926年(大正15年)	一般貨物自動車運送	那須烏山市
100	株式会社 家富商事	1926年(大正15年)	産業用電気機器卸	足利市
100	株式会社 みやこや	1926年(大正15年)	呉服・服地小売	足利市
80	株式会社 長嶋組	1946年(昭和21年)	土木工事業	宇都宮市
80	株式会社 若山商店	1946年(昭和21年)	生菓子製造	宇都宮市
80	井戸産業 株式会社	1946年(昭和21年)	土木工事業	鹿沼市
80	株式会社 めいじ屋	1946年(昭和21年)	木製品製造	鹿沼市
80	株式会社 フカサワ	1946年(昭和21年)	包装用品卸	宇都宮市
80	株式会社 八幡	1946年(昭和21年)	生コンクリート製造	宇都宮市
80	和田工業 株式会社	1946年(昭和21年)	一般管工事業	宇都宮市
80	野中商工 株式会社	1946年(昭和21年)	産業用電気機器卸	宇都宮市
80	株式会社 アリカンパニー	1946年(昭和21年)	男子服小売	宇都宮市
80	株式会社 スズテック	1946年(昭和21年)	農業用機械製造	宇都宮市
80	株式会社 三和電気工業所	1946年(昭和21年)	一般電気工事業	大田原市
80	株式会社 カザミフーズ	1946年(昭和21年)	調味料製造	足利市
80	株式会社 齋藤設備	1946年(昭和21年)	給排水・衛生工事業	足利市
70	東綱橋梁 株式会社	1956年(昭和31年)	建設用金属製品製造	下野市
60	株式会社 金平	1966年(昭和41年)	木材・竹材卸	宇都宮市
60	宮パーツ 株式会社	1966年(昭和41年)	自動車部品付属品卸	宇都宮市
60	ハイビック 株式会社	1966年(昭和41年)	木製組立材料製造	小山市
60	有限会社 大阿久精工	1966年(昭和41年)	金型・同部品等製造	栃木市
60	有限会社 沼尾板金工業	1966年(昭和41年)	金属製屋根工事業	宇都宮市
60	株式会社 川井	1966年(昭和41年)	木製家具製造	鹿沼市
50	有限会社 小山環境美化センター	1976年(昭和51年)	ごみ収集運搬	小山市
50	有限会社 あおきスポーツ	1976年(昭和51年)	スポーツ用品小売	小山市
50	晋豊建設 株式会社	1976年(昭和51年)	一般土木建築工事業	宇都宮市
50	株式会社 すずらん本舗	1976年(昭和51年)	菓子製造小売	宇都宮市
50	株式会社 壬生自動車学校	1976年(昭和51年)	職業訓練施設	壬生町
50	日建工業 株式会社	1976年(昭和51年)	左官工事業	宇都宮市
50	株式会社 ダイコー商会	1976年(昭和51年)	合成樹脂成形材料卸	栃木市
50	株式会社 中村機器	1976年(昭和51年)	電子部品製造	小山市
50	株式会社 フライングガーデン	1976年(昭和51年)	西洋料理店	小山市
50	有限会社 稲葉製作所	1976年(昭和51年)	金属スプリング製造	足利市
50	株式会社 匠建築事務所	1976年(昭和51年)	木造建築工事業	足利市
50	公益財団法人 足利市みどり文化・スポーツ財団	1976年(昭和51年)	非営利的団体	足利市
50	株式会社 ヤマイチ	1976年(昭和51年)	普通洗濯業	足利市

## 周年記念企業は 2,181 社、「100 周年」は 30 社

### 2026 年に「周年記念」を迎える企業数

周年	創業年	社数
10	2016年(平成28年)	276
20	2006年(平成18年)	483
30	1996年(平成8年)	252
40	1986年(昭和61年)	232
50	1976年(昭和51年)	349
60	1966年(昭和41年)	245
70	1956年(昭和31年)	96
80	1946年(昭和21年)	159
90	1936年(昭和11年)	19
100	1926年(大正15年)	30

周年	創業年	社数
110	1916年(大正5年)	24
120	1906年(明治39年)	7
130	1896年(明治29年)	4
150	1876年(明治9年)	4
160	1866年(慶応2年)	1

2026 年(令和 8 年)に 10 年刻みで節目となる周年を迎える栃木県内企業は、2025 年 11 月現在で 2,181 社あることが判明した。このうち 2006 年(平成 18 年)に創業した「20 周年」を迎える企業が 483 社で最も多かった。大きな節目である「50 周年」は 349 社、「100 周年」は 30 社が確認された。

今回、最も長い業歴を有する周年企業は 1866 年(慶応 2 年)に創業された、菊の里酒造(株)(大田原市・酒類製造)である。1866 年といえば討幕運動から明治維新に向かう過渡期にあたり、坂本龍馬が活躍し薩長同盟が成立したのもこの年だ。江戸幕府との間で幾多の戦闘が行われた。翌年に徳川慶喜によって大政奉還が行われた時期だから、混とんとした時代と言えるだろう。このような江戸時代末期では、石油はおろか石炭でさえ普及しておらず、燃料といえば木炭の時代である。当然地域産業といっても限られた分野しかないのも、酒造などの業者が地域のリーダーカンパニーであったことも想像できる。

「100 周年」については、1926 年(大正 15 年)にあたるので、大正天皇が崩御され昭和天皇が即位する節目の年だった。時代背景は第一次世界大戦が終結してまだ 5 年ほどと世界的にはまだ復興の途上にあり、国内では軍部の政治的な力がますます強固になりつつある時期と言える。大正デモクラシーの残り香も漂う時代なので、堅調な経済が続いたようだ。一方で、日本放送協会(NHK)が設立されたのもこの年で、メディアの普及も進んだ年でもあった。栃木県内企業では、(株)小林工業(下野市・一般土木建築工事)、(株)熊本商店(宇都宮市・鉄スクラップ卸)、烏山通運(株)(那須烏山市・一般貨物自動車運送)、(株)家富商事(足利市・産業用電気機器卸)、(株)みやこや(足利市・呉服、服地小売)などが創業された。

「50 周年」については、1976 年(昭和 51 年)であるから、73 年に表面化した石油危機(オイルショック)の影響もあり、低迷した景況感からやや持ち直しが見られた時代である。この年、ロッキード事件により時代の風雲児であった田中角栄元総理が逮捕されるというショッキングな出来事もあった。政治と金の話は昔からあったということだろう。一方で明るい話題としては、モントリオールオリンピックが開催、日本の体操男子やバレーボール女子が金メダルを獲得するなど大いに活躍した。一方芸能では、キャンディーズの「春一番」が大ヒット、「およげ! たいやきくん」の子門真人が爆発的なレコード販売を記録した。映画では「JAWS」、

「犬神家の一族」などがヒットしている。栃木県内企業では、(有)小山環境美化センター(小山市・ごみ収集運搬)、(有)あおきスポーツ(小山市・スポーツ用品小売)、晋豊建設(株)(宇都宮市・一般土木建築工事)、(株)すずらん本舗(宇都宮市・菓子製造小売)、(株)壬生自動車学校(壬生町・職業訓練施設)などが創業した。

## 業種別100周年は「小売業」、50周年企業は「建設業」が最多

業種別周年企業の割合

	30周年(1996年創業)		50周年(1976年創業)		70周年(1956年創業)		100周年(1926年創業)		全体社数
	社数	構成比(%)	社数	構成比(%)	社数	構成比(%)	社数	構成比(%)	
建設業	77	30.6	107	30.7	26	27.1	6	20.0	618
製造業	23	9.1	42	12.0	20	20.8	5	16.7	260
卸売業	21	8.3	32	9.2	8	8.3	5	16.7	202
小売業	21	8.3	45	12.9	22	22.9	12	40.0	274
運輸・通信業	10	4.0	10	2.9	0	0.0	1	3.3	64
サービス業	77	30.6	85	24.4	16	16.7	0	0.0	582
不動産業	19	7.5	23	6.6	2	2.1	1	3.3	121
農林水産業	2	0.8	4	1.1	0	0.0	0	0.0	30
金融・保険業	0	0.0	1	0.3	1	1.0	0	0.0	12
その他	2	0.8	0	0.0	1	1.0	0	0.0	18
合計	252	100.0	349	100.0	96	100.0	30	100.0	2,181

注：構成比は小数点第2位を四捨五入しているため、合計は100にならないことがある

栃木県内のアニバーサリー企業を業種別でみると、100周年では、「小売業」が12社(構成比40.0%)で最も多かった。以下、「建設業」が6社(同20.0%)、「製造業」および「卸売業」が各5社(同16.7%)と続いた。他方50周年については、「建設業」が最も多い107社(構成比30.7%)であった。以下、「サービス業」が85社(同24.4%)、「小売業」45社(同12.9%)、「製造業」42社(同12.0%)などが続いた。時代の変遷で、必要な業種も変化していることがわかるが、地方経済の特徴として、各種小売や限定的な品目の製造が江戸時代から存在し、明治期以降に様々な品目の製造業が台頭、戦後には建設業が急速に普及するといった流れが一般的で、栃木県も同様に推移している。特に、県内の基幹産業に成長している建設業は、現在も企業数は圧倒的に多く、比例して周年企業も多く発生するということだろう。また、サービス業も、戦後急速に発展を遂げた業種で、BtoBの職種からBtoCの職種まで様々なサービス形態がニーズとしてあるため、自然発生的に企業数も増加していった様子がうかがえる。

## 年商規模別、100周年は10億円未満が全体の83.3%

創業100周年を迎える30社を年商規模別でみると、最も多かったのは「1億円未満」で13社(構成比43.3%)であった。以下、「1～10億円未満」が12社(同40.0%)となり、10億円未満の企業が全体の83.3%を占めた。それ以外は、「10～50億円未満」が3社(同10.0%)、「50～100億円未満」が1社(同



3.3%)、「100～500 億円未満」1 社(同 3.3%)と続いた。老舗企業であってもその多くは中小企業であり、大企業は非常に少ないことがわかる。50 周年についても、「1 億円未満」が 184 社(構成比 52.7%)と過半数を占め、「1～10 億円未満」が 142 社(同 40.7%)と、合わせて 93.4%を占めた。以下、「10～50 億円未満」20 社(同 5.7%)、「50～100 億円未満」3 社(同 0.9%)と続いた。

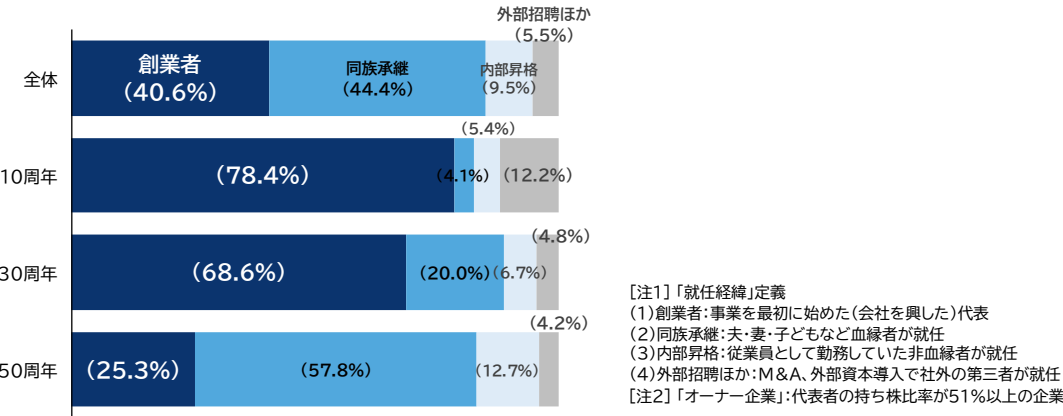
年商規模別周年企業の割合

	30周年（1996年創業）		50周年（1976年創業）		70周年（1956年創業）		100周年（1926年創業）		全体社数
	社数	構成比（%）	社数	構成比（%）	社数	構成比（%）	社数	構成比（%）	
1億円未満	152	60.3	184	52.7	53	55.2	13	43.3	1,264
1～10億円未満	88	34.9	142	40.7	28	29.2	12	40.0	776
10～50億円未満	7	2.8	20	5.7	11	11.5	3	10.0	98
50～100億円未満	4	1.6	3	0.9	0	0.0	1	3.3	14
100～500億円未満	1	0.4	0	0.0	4	4.2	1	3.3	18
500～1000億円未満	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1
未詳	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	10
合計	252	100.0	349	100.0	96	100.0	30	100.0	2,181

注：構成比は小数点第2位を四捨五入しているため、合計は100にならないことがある

就任経緯別では、創業者と同族承継が 85.0%を占める

周年別の就任経緯の割合



今回初めて分析を行ったのだが、現経営者の就任経緯が判明した栃木県内企業の内容を見ると、就任経緯で最も多いのは「同族承継」で 44.4%の構成比であった。次いで、「創業者」が 40.6%と、いわゆる同族企業が全体の 85.0%を占めていることが分かった。10 周年、30 周年といった比較的歴史の浅い企業では、さすがに「創業者」が多くを占めているが、50 周年になると、「同族承継」が 57.8%を占め、子息や妻などに代替わりしているという結果も出ている。全企業における事業承継の形とリンクしているとは言えないものの、栃木県における承継手段は“同族”がオーソドックスな形のようなのだ。

## 市郡別、県都「宇都宮市」の存在感大きく

創業 100 周年を迎える 30 社を市郡別に見ると、「宇都宮市」が 5 社（構成比 16.7%）で最も多かった。以下、「足利市」が 4 社（同 13.3%）、「鹿沼市」、「那須塩原市」および「那須烏山市」、「芳賀郡」の 4 市郡が各 3 社（同 10.0%）で続いた。

50 周年については、「宇都宮市」が最多の 93 社（構成比 26.6%）、以下、「小山市」が 34 社（同 9.7%）、「栃木市」29 社（同 8.3%）、「足利市」28 社（同 8.0%）、「鹿沼市」23 社（同 6.6%）などが続いた。

県庁所在地である宇都宮市に多くの企業が集積しており、近年では県内企業の約 3 社に 1 社は宇都宮の会社…という様相であり、人口密集、マーケットの大きさなどを考慮すれば自然の流れでもあるようだ。一方で、従来から長い歴史を有し産業を育んできた足利市や栃木市、佐野市などの存在感も大きい。50 周年以降になると、新興都市である小山市などが台頭してくる姿もよくわかる。

### 市郡別 周年企業の割合

	30周年（1996年創業）		50周年（1976年創業）		70周年（1956年創業）		100周年（1926年創業）	
	社数	構成比（%）	社数	構成比（%）	社数	構成比（%）	社数	構成比（%）
宇都宮市	73	29.0	93	26.6	22	22.9	5	16.7
足利市	19	7.5	28	8.0	9	9.4	4	13.3
栃木市	17	6.7	29	8.3	10	10.4	1	3.3
佐野市	8	3.2	15	4.3	10	10.4	2	6.7
鹿沼市	19	7.5	23	6.6	6	6.3	3	10.0
日光市	9	3.6	15	4.3	3	3.1	1	3.3
小山市	16	6.3	34	9.7	5	5.2	0	0.0
真岡市	13	5.2	14	4.0	4	4.2	0	0.0
大田原市	8	3.2	18	5.2	3	3.1	1	3.3
矢板市	4	1.6	5	1.4	2	2.1	0	0.0
那須塩原市	18	7.1	19	5.4	5	5.2	3	10.0
さくら市	7	2.8	2	0.6	1	1.0	1	3.3
那須烏山市	2	0.8	5	1.4	3	3.1	3	10.0
下野市	10	4.0	9	2.6	2	2.1	2	6.7
河内郡	4	1.6	3	0.9	4	4.2	0	0.0
芳賀郡	10	4.0	10	2.9	3	3.1	3	10.0
下都賀郡	5	2.0	16	4.6	4	4.2	0	0.0
塩谷郡	2	0.8	2	0.6	0	0.0	0	0.0
那須郡	8	3.2	9	2.6	0	0.0	1	3.3
合計	252	100.0	349	100.0	96	100.0	30	100.0

## まとめ

---

2025 年は倒産件数が最多を 2 年連続で更新し、中小企業受難の年として歴史に残るような負の側面も垣間見られた。ゼロゼロ融資の返済局面はまだまだ続くことになるし、物価高やそれに伴うコスト高は一朝一夕には解決しない問題である。トランプ関税なども今後その影響が明確化し明らかになってくるだろう。決して楽観視できない昨今の経済情勢ではある。しかしそのようななかで、歯を食いしばって生き続ける企業もたくさんある。様々な工夫を凝らし、ビジネスモデルを磨きあげている企業も決して少なくない。

老舗企業の経営者の多くが共通して語る秘訣は、「変化に柔軟に対応する適応力」であるという。例えば、江戸時代に「木炭」を販売していた業者が、明治期には「石炭」を扱い、戦後は「石油」や「ガス」を扱うようになる。「燃料販売」という分野だけでも大きく品目は変化していることがわかる。このように時代の流れに機敏に対応し、場合によっては社運をかけて新たな産業構造に飛び込むようなケースもあっただろう。そうやって、企業は生き残っていると言えるかもしれない。

来たる 2026 年は午(うま)年、午は成長や成功、繁栄のシンボルともいわれており、縁起的には非常に良いとされている。来年が契機となって躍進の年となり、多くの県内企業が明るい未来を見通せる時代になることを祈念してやまない。